

## 青森市の災害の記録〔「青森市地域防災計画（H19.3 策定）」より抜粋〕

## 第 8 節 災害の記録

## 第 1 . 水 害

青森市における水害（小災害含む。）発生の多くは、局地的常習的な低地浸水が特色である。

これは、背後地の八甲田山系に大雨が降った場合、たちまち小河川が増水氾濫することと、市街地一帯が地形的に高低差の少ない平坦地のためである。

大規模災害に発展するおそれのある気象配置による大雨には、昭和 44 年 8 月駒込川、堤川の決壊と氾濫により、床上浸水 6,263 世帯、床下浸水 6,896 世帯の大災害をひき起こした台風性豪雨がある。

このほか、積雪期（残雪含む。）における気温上昇や、低気圧による降雨などにより融雪洪水がしばしば発生している。発生時期は 1 月～ 4 月が多い。

近年における主な水害の発生状況は、次のとおりである。

年月日	種類	雨量	被害状況	備考
昭和 42 10 月	台風 34 号		【浪岡地区】 ・りんご 177 千箱 ・非住家半壊 1 棟	
昭和 43 8 月	集中豪雨		【浪岡地区】 ・浪岡川流域 住家床上・床下浸水 50 世帯 ・水稻冠水	
昭和 44 4 月	集中豪雨		【浪岡地区】 ・一般住家床上・床下浸水 13 世帯 （本町、北中野地区） ・道路 100m 欠壊 ・農地冠水	
昭和 44 8.23～24	台風 9 号 集中豪雨	八甲田 213 mm 市内 119 mm	8 月 22 日鹿児島県に上陸した台風 9 号は、各地に被害をもたらしながら内陸部をジグザクに北上を続け、仙台湾に抜け消滅するものと観測されていたが、23 日夕方から降り初めた雨は夜半にかけて土砂降りとなり、八甲田山系に集中豪雨をもたらした。 山岳部に降った雨は流下するのも早く、24 日午前 1 時 55 分、洪水警報が発令される 30 分前から八甲田山系に属する駒込川、堤川などが警戒水位を突破して急激に増水を続け、数箇所が決壊、濁流は鉄砲水となって住宅地に侵入し、未曾有の大洪水に見舞われた。	本部設置 救助法適用

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家床上浸水 6,263 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 6,896 世帯</li> <li>・ " 半壊 7 世帯</li> <li>・ " 全壊流失 8 棟</li> <li>・非住家流失 6 棟</li> <li>・公共施設被害総額 714,870 千円</li> <li>・各種産業被害総額 3,442,765 千円</li> <li>・一般住家被害総額 1,627,100 千円</li> <li style="padding-left: 20px;">計 5,784,735 千円</li> </ul> <p>【浪岡地区】(全域被災)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家床上浸水 109 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 90 世帯</li> <li>・非住家浸水 38 棟</li> </ul>	
昭和 49 9.9~10	台風 18 号 の影響による大雨	市内 141 mm 八甲田 99 mm	<p>日本海中部の前線を伴った低気圧の接近により、8 日午後から津軽地方を中心に強い雨が降り出した。一方台風 18 号は、8 日夜、九州の枕崎付近に上陸し、9 日朝、四国付近で温帯低気圧に変わった。その後、台風から変わった温帯低気圧は速い速度で北上し、9 日夜には秋田付近、10 日朝には八戸沖に達した。</p> <p>このため、9 日午後からは、三八、上北地方でも雨が降り出し、その後も雨は更に強まり大雨となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家床上浸水 361 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 1,822 世帯</li> <li>・公共施設被害総額 229,954 千円</li> <li>・各種産業被害総額 17,391 千円</li> <li>・一般住家被害総額 158,300 千円</li> <li style="padding-left: 20px;">計 405,645 千円</li> </ul> <p>【浪岡地区】(全域被災)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家床上浸水 109 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 190 世帯</li> <li>・水稻冠水 400ha</li> </ul>	本部設置 救助法適用
昭和 50 8.6	集中豪雨	市内 69 mm 八甲田 32 mm	<p>20 区域にわたり災害が発生し、床上浸水 51 世帯、床下浸水 297 世帯の被害を受けた。</p> <p>【浪岡地区】(全域被災)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家床上浸水 30 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 162 世帯</li> <li>・非住家浸水 30 棟</li> <li>・道路欠壊 6 箇所</li> </ul>	法外援護適用(浪岡地区のみ)
昭和 50 8.23~24	台風 6 号 の影響による高潮	市内 30 mm 八甲田 24 mm	<p>台風 6 号の影響により瞬間最大風速 23m の強風となり異常な高潮が押し寄せ、本町四丁目、青柳一丁目、港町二丁目床上浸水 8 世帯、床下浸水 106 世帯の被害を受けた。また、八重田</p>	本部設置

			浄化センターの海岸護岸壁 75.7mが決壊したため、多量の海水が流入し施設に大きな被害を受けた。	
昭和 52 8.5	集中豪雨	市内 153 mm 八甲田 238 mm 酸ヶ湯 180 mm	<p>前線の影響で5日未明から強い雨が降り、入内川及びその他の河川、水路が氾濫、市内一円が浸水又は冠水し、住家及び公共施設に被害を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家床上浸水 237 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 2,297 世帯</li> <li>・ " 流 失 1 世帯</li> <li>・公共施設被害総額 707,702 千円</li> <li>・各種産業被害総額 136,392 千円</li> <li>・一般住家被害総額 305,700 千円</li> <li>計 1,149,794 千円</li> </ul> <p>【浪岡地区】 浪岡川、本郷川、正平津川等主要河川氾濫により全域が被災し、その降雨量は、8月5日午前0時から19時までで242ミリ、1時間最大降雨量72ミリ（大字吉内観測）であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重傷者 1 名</li> <li>・軽傷者 2 名</li> <li>・一般住家全壊流出 4 世帯</li> <li>・ " 半壊 6 世帯</li> <li>・ " 床上浸水 625 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 706 世帯</li> <li>・非住家浸水 766 棟</li> <li>・農地冠水、土砂流入地域 732ha</li> <li>・農地、道路、橋梁、農産物、建物被害額 40 億円</li> </ul>	<p>本部設置 法外援護適用</p> <p>本部設置 救助法適用</p>
昭和 56 8.21～23	集中豪雨 台風 15 号	市内 169 mm 酸ヶ湯 232 mm	<p>日本海低気圧の接近により、8月21日午後から降り出した強い雨は翌22日から23日にかけて平地169mm、酸ヶ湯232mmを記録する集中豪雨となり、中小河川の氾濫、低地の浸水等により道路冠水、床上・床下浸水の被害が発生した。また、台風15号による強風（瞬間最大風速32m）で被害が増大した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家床上浸水 114 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 772 世帯</li> <li>・公共施設被害総額 498,214 千円</li> <li>・各種産業被害総額 423,119 千円</li> <li>・一般住家被害総額 117,100 千円</li> <li>計 1,038,433 千円</li> </ul>	

<p>平成 11 10.28</p>	<p>低気圧による大雨 ・高潮</p>	<p>市内 140 mm 酸ヶ湯 212 mm</p>	<p>10月27日21時、発達中の低気圧が関東北部にあり北北東に進み、28日3時には宮城県沖に達し、急速に発達しながら宮城、岩手県境沖の海上をゆっくり北上した。</p> <p>この低気圧の接近により、県内は28日朝から風と雨が強まり、降り始めから28日16時までの総雨量は、青森で140ミリ、酸ヶ湯で212ミリに達した。</p> <p>また、朝方からの北東の強い風は9時には北の風になり、昼過ぎにかけて引き続き強くなり、青森では最大瞬間風速 27.4m / s (28日09時27分) を観測した。</p> <p>このため、青森港において高潮が発生し、また、特に東部方面の山間部に大量に降った雨により、野内地区の貴船川が氾濫したことにより、住家、公共施設及び農地などに大きな被害が発生した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家床上浸水 77世帯</li> <li>・ " 床下浸水 168世帯</li> <li>・ " 一部損壊 2世帯</li> <li>・非住家浸水 89棟</li> <li>・道路冠水 54箇所</li> <li>・河川被害 8箇所</li> <li>・道路被害 9箇所</li> <li>・農地被害 28箇所</li> </ul>	
<p>平成 12 7.25</p>	<p>集中豪雨</p>	<p>市内 129.5 mm</p>	<p>7月25日12時から15時にかけて青森市はかつてない集中豪雨に見舞われ、特に13時から14時までには一時間に64ミリという青森地方気象台観測史上最高の雨量を記録した。</p> <p>この下水道施設の排水能力を超える集中豪雨により、市内全域に渡り道路が冠水し、特に旭町地区、港町地区において家屋の浸水被害が多発した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家 床上浸水 106世帯</li> <li>・ " 床下浸水 386世帯</li> <li>・ " 一部損壊 1世帯</li> <li>・非住家浸水 207棟</li> <li>・道路冠水 276箇所</li> <li>・河川被害 5箇所</li> <li>・道路被害 5箇所</li> <li>・農地被害 4箇所</li> </ul>	<p>本部設置</p>
<p>平成 14 8.10~11</p>	<p>大雨</p>	<p>市内 129.5mm</p>	<p>8月10日14時から11日21時にかけて青森市は大雨に見舞われ、10日には36.5ミリ、11日には93ミリの大雨が降り、総雨量は129.5ミリに達し、各地で道路冠水や浸水被害が発生し、新城字山田地区の3世帯4名及び浅虫字山下地区の1世帯5名に避難勧告を行った。</p> <p>また、前線の停滞により8月7日より地盤が</p>	

			<p>緩んでいたこともあり、道路や水路の法面崩落などの土砂災害も多発した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家 床上浸水 11 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 59 世帯</li> <li>・非住家浸水 24 棟</li> <li>・道路冠水 37 箇所</li> <li>・水路溢水 26 箇所</li> <li>・農地被害 155 箇所</li> <li>・土砂災害等 102 箇所</li> </ul>	
平成 16 8.20	台風 15 号	市内 20mm	<p>台風 15 号の影響により、青森市では 8 月 19 日 15 時から 20 日 22 時までで総雨量 20 ミリを記録し、一般住家床上浸水 1 棟、床下浸水 16 棟等の被害が発生した。</p>	
平成 16 9.29～30	台風 21 号	市内 122mm	<p>台風 21 号の接近に伴い、前線の活動が活発となった青森市では、降り始めの 29 日 14 時から 30 日 16 時までの総雨量は 122 ミリに達し、中でも 30 日は 1 日の降水量が 112 ミリと、気象台が統計を開始した 1886 年以来、第 1 位となる雨量を観測した。</p> <p>この大雨により、河川や水路等が溢れ、道路冠水、住家浸水被害等が発生した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般住家 床上浸水 2 世帯</li> <li>・ " 床下浸水 9 世帯</li> <li>・非住家床下浸水 24 棟</li> <li>・道路冠水 37 箇所</li> <li>・河川被害 40 箇所</li> <li>・道路被害 16 箇所</li> <li>・農地被害 53 箇所 等</li> </ul>	

## 第 2 . 風 害

青森市の近年における主な風害の発生状況は、次のとおりである。

### 平成 3 年 台風 1 9 号

#### ア . 気象及び被害の状況

中心気圧 925hpa を記録した大型で強い台風は、9 月 27 日九州上陸ののち、日本海を進み 28 日午前 8 時前、北海道南部の渡島半島に再上陸した。記録的な強風のため、九州から東北の 15 県で大きな被害を受けた。

青森市でも、中心気圧 950hpa の台風による影響で、28 日午前 4 時過ぎ頃から暴風域に入り、午前 6 時 5 分に最大瞬間風速南西の風 53.9m、午前 6 時 10 分に最大風速 29m を記録し、死傷者 8 名、住家被害 1,130 棟、非住家 715 棟の被害のほか、農作物の被害や電信電話の不通など公共施設及び各種産業施設に総額 31 億円にのぼる莫大な被害をもたらした。

#### イ．被害状況

・死者	1名	・重軽傷者	7名
・住家全壊	2棟	・非住家全壊	66棟
・住家半壊	60棟	・非住家半壊	58棟
・住家一部破損	1,068棟	・非住家破損	591棟
・停電戸数	47,000戸	・電話通話不通	920戸
・公共被害	314,000千円		
・民間被害	2,075,000千円（リンゴ落下 3,863 t、パイプハウス倒壊、造林木の被害、福祉施設、商工水産施設等）		

#### ウ．応急対策

台風通過後、直ちに災害対策本部を設置し、被害状況の把握に努め、臨時総合相談所の開設、災害援護資金の貸付、市税減免等の措置をとった。

- ・本部設置 9月28日
- ・本部解散 3月31日

#### 【浪岡地区】

浪岡地区においては、最大瞬間風速51.3m（津軽中部農業共済組合）を記録した。

・重傷者	2名	・軽傷者	5名
・住家全壊	14棟		
・住家半壊	130棟		
・住家一部破損	453棟		
・り災世帯数	597世帯	・り災者数	2,380名
・被害総額	8,823,198千円		
災害対策本部設置、災害救助法適用			

### 第3．雪害

青森市の近年における主な雪害の発生状況は、次のとおりである。

#### 昭和52年2月 豪雪

##### ア．気象経過

昭和51年12月中旬から北日本は冬型の気圧配置が続き、津軽、下北地方は雪が降り続いて月末には平年なみの積雪となった。この降雪は1月8日頃まで続き、9日9時現在の積雪は81cmとなった。その後も上空の寒気は次々と北日本付近を通り、20日には積雪が148cmに達し、本市の積雪としては、明治27年積雪観測開始以来3番目の記録となった。その後30日頃までは冬型の気圧配置が弱まり積雪は増加しなかったが、30日夜から再び気圧配置が強まったため毎日のように雪が降り続き、2月4日9時現在で173cmと今冬最深雪を記録した。5、6日は一時小康状態となったが、6日夜から8日にかけて再び降り出し、8日9時現在で185cm（21時195cm）となり、戦後最深の積雪となった。

##### イ．被害、損害状況

###### (ア) 被害

・死者	1名	・重軽傷者	49名
・住家全壊	1世帯	・非住家全壊	10棟
・住家半壊	1世帯	・非住家半壊	2棟
・住家一部破損	1,000世帯（推定）		

- ・床上浸水 3世帯
- ・床下浸水 19世帯
- (イ) 被害、損害額
  - ・道路及び公共施設の除排雪 1,332,191千円
  - ・民間関係の除排雪 5,053,026千円
  - ・公共施設被害、損害 157,679千円
  - ・民間関係の被害 145,903千円
  - ・民間関係の事業損害 43,060,418千円
  - 計 49,749,217千円

ウ．応急対策

- ・障害物の除去（雪おろし等）の実施

2月11日午後10時に災害救助法が適用されたことに伴い、積雪のため住宅が倒壊する危険があるなど、日常生活に著しい支障がある世帯のうち、自力又は自らの資力で除雪できない248世帯について、雪おろし、出入口付近の除雪等を実施した。

実施期間 2月11日～2月20日  
 人夫延人員 532名  
 人夫賃支出額 2,828,500円

- ・本部設置 2月10日
- ・本部解散 3月10日
- ・道路の除排雪 12月1日 除雪対策本部設置

使用車両内訳（延べ台数）

（単位：台）

	ロータリー	タイヤド ーザー	ブルドー ザー	小型ブル ドーザー	ショベル ローダー	ダンプト ラック	グレーダ ー	凍結防止 剤散布車	計
委託	405	327	774	906	6,582	11,991	0	0	20,985
直営	361	424	6	8	177	3,247	556	74	4,853
計	766	751	780	914	6,759	15,238	556	74	25,838

【浪岡地区】（1月）

- ・家屋（非住家含む。）全壊1戸、一部損壊54戸  
 災害対策本部設置

平成12年12月～13年2月 豪雪

平成12年12月から平成13年2月にかけて、断続的に雪が降り続き、累積降雪量は900センチとなり、加えて、日中の最高気温が0度を下回るいわゆる真冬日が15日間連続し、積雪深は2月14日に153センチに達した。

1月17日に青森市は豪雪災害対策本部を設置し、道路の除排雪作業を強化する一方、ボランティアを募集し、高齢者世帯等の屋根の雪おろしや通学路除雪などを懸命に実施した。

- ・住家被害 一部破損 52棟
- ・非住家被害 全壊 6棟
- ・非住家被害 一部破損 9棟
- ・非住家被害 浸水 4棟
- ・公共建物被害 一部破損 1棟
- ・道路冠水 12件
- ・その他 3件

## 平成17年3月 豪雪

### ア．気象経過

平成16年12月末にまとまった降雪があって以来、間断のない降雪状況が続き、平成17年3月3日午前9時には、最大積雪深が観測史上4番目となる178cm、降雪量累計も1,043cmを記録するとともに、市内各地において雪処理作業による死傷者、住家・非住家の倒壊被害が発生した。

### イ．被害状況

・死者	2名	・重軽傷者	62名
・住家全壊	1世帯	・非住家全壊	13棟
・非住家半壊	2棟		

### ウ．応急対策

- ・豪雪災害対策本部の設置（平成18年3月3日正午）
- ・陸上自衛隊第9師団に災害派遣を要請（平成18年3月6日～8日）  
緊急処理が必要な高齢者世帯等の屋根雪処理を実施。  
屋根雪処理箇所数 88箇所  
活動人員数 約1,400名  
活動車両 約150両
- ・青森市スノーレスキュー隊の結成  
市職員によるチーム（1チーム5名）を編成し、緊急処理が必要な高齢者世帯及び空家の屋根雪処理を実施。  
屋根雪処理実施箇所数 54箇所
- ・豪雪災害対策本部の廃止（平成18年3月15日17時）

## 平成17年4月 融雪災害

### ア．気象経過

平成17年の豪雪を受けて、4月に入り気温が上昇したことにより、4月6日3時31分融雪注意報が発令されるとともに、市内各地において浸水被害及び土砂崩れ等の被害が発生し、新城緑ヶ丘団地では4世帯11名、旗の台団地では、2世帯13名に対して避難勧告を行った。

### イ．被害状況

・住家床下浸水	3世帯
・土砂崩れ	116箇所
・道路冠水	12箇所
・河川被害	8箇所
・ため池被害	1箇所
・公共施設被害	2箇所

### 積雪の記録

順位	最深積雪	記録年月日
1	209 cm	昭和20年2月21日
2	195 cm	昭和52年2月8日
3	194 cm	昭和61年2月6日
4	178cm	平成17年3月3日
5	166 cm	昭和35年2月19日



## 第4.火災

### 1.建物火災

昭和46年頃までは、比較的大きな火災が発生したが、近年は消防機構の広域化を始め、消防力の充実、建築物の耐火構造の普及等により、発生件数は年々減少している。

過去における主な火災の発生状況は、次のとおりである。

火災発生日月日	状 況 等
昭和 21 年 4 月 6 日	【浪岡地区】 若松地区全焼76棟、損害18,915千円
昭和 22 年 4 月 18 日	午後3時5分、北金沢の住宅から出火し、南西の風に煽られ旭町、長島の一部5,638坪、273棟324戸焼失、傷者15名、損害61,506,200円
昭和 23 年 5 月 20 日	午後2時50分、浦町字橋本鹿兒島組炊事場から出火し、西風により道路横断、浦町鉄道官舎焼失1,225坪、49棟79戸全半焼、損害19,780,000円
昭和 31 年 4 月 14 日	午後11時30分頃、油川字大浜の住宅から出火し、46棟全半焼、1,726坪、損害33,040,930円
昭和 32 年 5 月 11 日	午前10時22分頃、小橋字田川の舟小屋から出火し、46棟全半焼、1,070坪、損害19,740,725円
昭和 34 年 10 月 24 日	午前2時20分頃、横内字亀井の物置付近から出火し、住宅16棟、住宅付店舗2棟、非住家13棟全焼、2棟住宅部分焼、2,618㎡焼失、損害17,103千円
昭和 36 年 4 月 30 日	午後1時46分頃、駒込字桐の沢の物置から出火し、105棟全半焼、7,004㎡焼失、損害36,411,930円
昭和 39 年 11 月 21 日	午前0時12分頃、沖館字篠田のクリーニング店二階乾燥室から出火し、36棟全半焼、7,895㎡焼失、損害137,747千円
昭和 41 年 5 月 18 日	午前0時30分頃、横内字亀井の住宅居間から出火し、17棟全焼、1,516㎡焼失、損害8,787千円
昭和 45 年 1 月 10 日	午前2時20分頃、橋本一丁目の木工所から出火し、4棟全焼、2棟部分焼、1,414㎡焼失、損害48,427千円、死者2名
昭和 45 年 3 月	【浪岡地区】 大釈迦地区、全焼4棟
昭和 45 年 12 月 11 日	午後8時55分頃、新町二丁目清水ビル1階店舗内から出火し、清水ビル、協働社ビル2棟全焼、丸大ビル1棟半焼、4,392㎡焼失、損害339,900千円
昭和 46 年 11 月 11 日	午前0時45分頃、新城字平岡の木工団地内木工所から出火し、工場等を6棟全半焼、2,570㎡焼失、損害107,290千円

昭和46年12月25日	午前2時45分頃、港町二丁目貨物自動車集配センター事務所の休憩室から出火し、センター、住宅4棟が全半焼、1,270㎡焼失、損害25,754千円
昭和48年4月	【浪岡地区】 北中野地区、全焼6棟、半焼1棟
昭和51年8月17日	午後4時28分頃、沖館字小浜製材所工場内ののこぎり屑集積所から出火し、製材工場1棟全焼、1,640㎡焼失、損害116,978千円
昭和53年10月19日	午前4時50分頃、羽白字池上、青森市立油川中学校の音楽室前の廊下付近から出火し、体育館付校舎1棟全焼、3,830㎡焼失、損害67,352千円
昭和57年7月2日	午前1時57分頃、新城字平岡木工団地内の集成材工場内から出火し、工場2棟全半焼、1,336㎡焼失、損害177,625千円
昭和60年8月27日	午前0時32分頃、雲谷字山吹の店舗付旅館1階調理場から出火し、同棟497㎡全焼、り災世帯2世帯、宿泊客7名がり災、損害14,374千円
昭和63年4月8日	午後1時10分覚知、千刈二丁目、木造2階建倉庫から出火し、同棟を全焼し、隣接の木造モルタル2階建共同住宅及び木造2階建事務所付作業場の2棟を半焼したほか、木造モルタル2階建共同住宅1棟を部分焼、敷地に駐車中の乗用車2台を焼損した。 焼損面積322㎡、損害額6,952千円
昭和63年7月23日	午前4時27分頃、松森字佃、青森市立佃中学校（耐火構造3階建）の2階理科準備室から出火、同準備室及び廊下を含めて81㎡焼損した。なお、土曜日で生徒は退校しており負傷者はなかった。 損害額11,587千円
平成元年4月26日	午前1時47分頃、松森一丁目、木造平屋建トタン葺の住宅から出火、火元棟を含む住宅3棟と共同住宅1棟、物置の5棟全焼、住宅1棟半焼、さらに住宅3棟が部分焼し、延べ655㎡を焼損、28名がり災したほか、火元建物で居住者以外の男性45歳（氏名等は後に判明）が焼死した。 損害額27,751千円、り災世帯16世帯
平成2年3月30日	午後8時10分頃、新町一丁目、木造モルタル2階建トタン葺飲食店舗付住宅の2階から出火、同建物を全焼したほか、北隣接の店舗付住宅へ延焼し、同建物を合わせて420㎡、2棟を全焼し、全車出動となった。 損害額43,165千円、り災世帯2世帯
平成2年5月21日	午前0時50分頃、八重田字矢作、木造モルタル2階建トタン葺住宅1階台所から出火、同棟98㎡を全焼したほか、隣接住宅に延焼し、2棟全焼、1棟部分焼、延べ296㎡を焼損、駐車していた乗用車等2台も焼破損した。さらに住宅6棟（うち1棟は空家）と物置3棟が窓ガラス破損したほか、備品等一部焼損溶解し、応急消火義務者の男62歳が火傷（火傷程度3度・重症入院）を負った。 損害額28,935千円、り災世帯9世帯
平成3年1月31日	午前9時15分頃、新城字山田、木造モルタル2階建トタン葺の住宅1階台所から出火、同棟を全焼したほか、同敷地内の車庫全焼、隣接住宅に延焼し、住宅1棟半焼、住宅1棟部分焼、焼損面積197㎡、損害額23,748千円

平成 3 年 10 月 9 日	午後 11 時 48 分頃、篠田三丁目、木造一部 2 階建トタン葺車庫兼物置 1 階車庫から出火、同棟を全焼、隣接の住宅 2 棟全焼、車庫 1 棟全焼、共同住宅 1 棟部分焼、住宅 2 棟部分焼、専門学校 1 棟部分焼、乗用車 1 台焼損、焼損面積 543 m <sup>2</sup> 、損害額 11,913 千円
平成 4 年 8 月 15 日	午後 2 時 26 分頃、三内字沢部、木造モルタル一部 2 階建トタン葺の住宅付車庫 1 棟を全焼した他、同敷地内、木造モルタル 2 階建、トタン葺の資材置場 1 棟を全焼、同敷地内、プレハブ 1 棟を全焼、車両 4 台全焼、2 台部分焼、焼損面積 2,036 m <sup>2</sup> 、損害額 51,541 千円
平成 5 年 4 月 1 日	午前 9 時 9 分頃、橋本三丁目、木造平屋建トタン葺の住宅 1 階居間から出火、同棟 59 m <sup>2</sup> を全焼し、東側隣接住宅、物置及び北側隣接物置 3 棟を全焼、西側隣接住宅 1 棟半焼、南側隣接住宅及び東側隣接住宅 2 棟が部分焼となり、火元建物の女 77 才が焼死した。 焼損面積 227 m <sup>2</sup> 、損害額 7,368 千円、原因はローソク
平成 5 年 5 月 17 日	午後 1 時 57 分頃、大野字金沢、木造モルタル一部 2 階建トタン葺の住宅 1 階台所から出火、同棟 157 m <sup>2</sup> を全焼し、北側隣接倉庫 1 棟、東側隣接共同住宅及び倉庫 2 棟、南側住宅及び共同住宅 2 棟が部分焼となった。 焼損面積 167 m <sup>2</sup> 、損害額 6,345 千円、原因はガスコンロの消し忘れにより天ぷら鍋に火が入ったもの。(全車出動火災)
平成 5 年 5 月 19 日	午後 0 時 20 分頃、本町一丁目、木造モルタル 2 階建トタン葺の貸駐車場及び遊戯場付住宅 1 階駐車場階段下付近から出火、同棟 355 m <sup>2</sup> を半焼した。焼損面積 355 m <sup>2</sup> 、損害額 92,457 千円、原因不明(全車出動火災)
平成 6 年 2 月 10 日	午後 1 時 18 分頃、荒川字筒井、木造一部下見板モルタル一部 2 階建トタン葺住宅 1 階車庫から出火、同棟 302 m <sup>2</sup> を全焼し、東側及び西側隣接住宅 2 棟、西側隣接物置 1 棟が部分焼となった。 焼損面積 302 m <sup>2</sup> 、損害額 10,469 千円、原因は薪ストーブの取灰の不始末。
平成 6 年 3 月 25 日	午前 4 時 53 分頃、本町五丁目、木造モルタル一部 2 階建トタン葺飲食店舗 2 階店舗内から出火し、同店舗を半焼した。 焼損面積 220 m <sup>2</sup> 、損害額 40,067 千円、原因不明
平成 6 年 5 月 2 日	午後 7 時 26 分頃、大野字片岡、木造モルタル一部 2 階建トタン葺住宅 1 階台所から出火、同棟を全焼し、東側及び西側隣接住宅 2 棟が部分焼となった。 焼損面積 121 m <sup>2</sup> 、損害額 12,549 千円、原因はガスコンロの消し忘れにより天ぷら鍋に火が入ったもの。(全車出動火災)
平成 7 年 8 月 21 日	午後 6 時 31 分頃、新城字平岡、鉄筋コンクリート造一部 2 階建特殊浴場 2 階遊戯場から出火、同棟を部分焼した。 焼損面積 455 m <sup>2</sup> 、損害額 85,202 千円、原因不明
平成 9 年 11 月 24 日	午前 10 時 25 分頃、旭町一丁目、木造モルタル 2 階建トタン葺住宅 2 階子供部屋から出火し、同棟を全焼、北側隣接住宅 1 棟全焼、1 棟がばよとなった。 焼損面積 345 m <sup>2</sup> 、損害額 42,850 千円、原因 石油ストーブ
平成 10 年 11 月 8 日	午前 0 時 38 分頃、中央一丁目、木造板張一部 2 階建空き家から出火し、

平成 11 年 7 月 14 日	同棟を全焼し、住宅 1 棟、食料品店 1 棟全焼、住宅 1 棟半焼、2 棟がぼやとなった。 焼損面積 1,041 m <sup>2</sup> 、損害額 93,688 千円、原因 放火
平成 13 年 1 月 25 日	午後 2 時 6 分頃、造道一丁目、木造板張平屋建トタン葺木材乾燥場から出火し、同棟を全焼、隣接建物 2 棟を全焼した。 焼損面積 506 m <sup>2</sup> 、損害額 50,191 千円、原因 屋内配線
平成 13 年 3 月 31 日	午前 3 時 35 分頃、南佃二丁目、木造不燃材張 2 階建、事務所兼倉庫から出火し、同棟を全焼、隣接工場兼事務所 1 棟半焼、レストラン 1 棟がぼやとなった。 焼損面積 669 m <sup>2</sup> 、損害額 36,476 千円、原因 不明
平成 15 年 9 月 23 日	午前 0 時 10 分頃、奥野三丁目、木造平屋建物置から出火し、同棟を全焼、隣接の物置、住宅等 2 棟全焼、2 棟半焼し、焼死者 2 名が発生した。 焼損面積 566 m <sup>2</sup> 、損害額 29,000 千円、原因 不明
平成 15 年 9 月 23 日	午後 11 時 18 分頃、港町三丁目、木造モルタル 2 階建飲食店舗から出火し、同建物を全焼、隣接の倉庫 1 棟全焼、住宅 1 棟半焼、住宅 1 棟部分焼、住宅 5 棟がぼやとなった。 焼損面積 1,969 m <sup>2</sup> 、損害額 1,374,587 千円（第 3 出動火災）

## 2. 林野火災

青森市の近年における主な林野火災の発生状況は、次のとおりである。

火災発生年月日	状 況 等
昭和 44 年 7 月 15 日	午後 1 時 40 分頃、瀬戸子山国有林内から出火し、国有林野 2,000 a 焼失、損害額 7,274 千円
昭和 44 年 7 月	【浪岡地区】 王余魚沢 原野 7ha
昭和 45 年 5 月 30 日	午前 11 時 30 分頃、岩渡字熊沢私有林から出火し、林野 1,700 a 焼失、損害額 1,375 千円
昭和 46 年 5 月 20 日	午前 11 時 30 分頃、高田朝日山私有林から出火し、林野 7,300 a 焼失、6 時間後に鎮火した。損害額 4,200 千円
昭和 62 年 5 月 10 日	午前 9 時 8 分頃、岩渡字熊沢 29、民有林地内から出火し、林野 2,000 a 焼失、損害額 40,893 千円
平成 9 年 4 月 28 日	午前 10 時 58 分頃、戸山字赤坂、戸山団地東側砥取山山麓から出火し、林野 2,053 a 焼失、損害額 22,705 千円

[ 参考 ]

年度	火災件数	延焼面積	備考
平成 8 年度	1 件	約 5,000 m <sup>2</sup>	
平成 9 年度	2 件	約 245,500 m <sup>2</sup>	
平成 10 年度	5 件	約 18,130 m <sup>2</sup>	
平成 11 年度	2 件	約 1,960 m <sup>2</sup>	
平成 12 年度	3 件	約 2,400 m <sup>2</sup>	
平成 13 年度	10 件	約 15,700 m <sup>2</sup>	
平成 14 年度	8 件	約 6,679 m <sup>2</sup>	
平成 15 年度	6 件	約 5,655 m <sup>2</sup>	
平成 16 年度	3 件	約 571 m <sup>2</sup>	
平成 17 年度	0 件	0 m <sup>2</sup>	

## 第 5 . 地 震

青森市における近年の主な地震災害は、次のとおりである。

### 十勝沖地震

#### ア . 地震の規模

昭和 43 年 5 月 16 日午前 9 時、青森地方気象台の地震計は、ややゆるやかな振動を記録し始め、約 30 秒後に強い横揺れとなり、ついに震度 5 ( M7.9 ) を記録した。青森市において震度 5 は昭和元年以来初めての記録である。

全国の地震観測網によって気象庁が観測した震源地は北緯 40.7 度、東経 143.7 度で、八戸市の東方約 180 km の地点、震源の深さは約 0 km と推定された。

#### イ . 被害の状況

県内全域 ( 主として青森市、下北郡、上北郡に集中 ) の被害総額は約 470 億円に達し、死者 46 名、行方不明 2 名、負傷者 671 名、全壊 911 棟、半壊 4,851 棟、一部破損 47,961 棟のほか、火災の発生、交通の途絶、電信電話の不通、水道の断水など甚大な被害を受けた。

青森市においても死傷者 59 名、住家被害 2,250 棟、非住家被害 362 箇所及び公共施設、各種産業施設に被害が発生し、総額 34 億円にのぼる莫大な被害を出すに至った。

・ 死 者	5 名
・ 重軽傷者	54 名
・ 住家全壊 ( 焼 )	5 世帯
・ 住家半壊 ( 焼 )	888 世帯
・ 住家一部破損	1,357 世帯
・ 非住家一部破損	362 箇所
・ 公共施設関係	1,307,787 千円
・ 市民及び各種産業関係	2,179,210 千円
計	3,486,997 千円

#### ウ．応急対策

この震災で青森市のほか 12 市町村に災害救助法が適用され、農林水産中小企業の一部には激甚法が適用となった。特に青森市の場合は、上水道施設が壊滅的打撃を受けたため、総力をあげて水道復旧に当たった。市内の 4 割に給水している横内浄水場では、水源地から浄水場までの導水管 20 箇所、沈澱池 2 箇所、ろ過池 4 箇所、配水池 2 箇所、市内までの送水管 160 箇所、市内の配水支管 230 箇所が寸断された。このため青森市では、配水管の復旧工事に全力をあげ、自衛隊、消防団、建設省、県、弘前市、秋田市、仙台市などの応援を得て、16 日から 22 日まで市中央部の 26,000 世帯、約 106,000 人に対し精力的な運搬給水を行った。

#### 【浪岡地区】

住家半壊 2 世帯、非住家 10 棟

### 日本海中部地震

#### ア．地震の規模

昭和 58 年 5 月 26 日午後零時頃、県内全域に強い地震が観測された。

震源地は秋田沖の日本海中部で、震源の深さは 14 km の地点、地震の規模は M7.7 を記録したが、青森市においても震度 4 の中震を記録した。

#### イ．被害の状況

この地震で日本海沿岸一帯を津波が襲ったこともあり、死者 17 名、負傷者 25 名、全壊 447 棟、半壊 865 棟、一部破損 3,018 棟、床上浸水 62 棟、床下浸水 152 棟などの被害を受けた。

青森市においては、幸い人身事故はなかったものの道路の決壊、河川の護岸決壊、小・中学校の外壁亀裂、水道配水管の破損などを始め、卸小売業の商品損傷や店舗の破損などの被害を受けた。また、青森県内の鉄道が地震とともに全面ストップしたほか、東北本線も一時不通となった。

・ 公共施設関係	505,000 千円
・ 土木被害（17ヶ所）	79,046 千円
・ 農業施設被害（25ヶ所）	133,200 千円
・ 漁港施設被害（10ヶ所）	173,800 千円
・ 上水道施設被害（10ヶ所）	7,212 千円
・ 教育施設被害（81ヶ所）	111,345 千円
・ 民間被害関係	594,130 千円

#### ウ．応急対策

地震発生後、直ちに青森市地域防災計画に定める動員配備基準に従い予想される事態に対処すべく第一配備体制をとり、災害情報の収集に努め、被害状況に応じた応急処置に当たった。

また、津波警報が発表されたため青森市では警戒態勢に入り、青森港管理事務所を通じて潮位の把握、堤川の水位の測定、海岸地帯への消防団の配置及び万一の避難命令に対処するための広報車の配置等の措置をとった。その後、満潮時（午後 3 時 15 分）を過ぎ徐々に潮位、堤川の水位は減少し、体制は解除された。

#### 【浪岡地区】

浪岡地区においては、震度 5（浪岡ダム測定）を記録し、重傷者 2 名、軽傷者 1 名、住家全壊 3 棟、半壊 16 棟、一部破損 201 棟等甚大な被害を受けた。

・ 災世帯数	510 世帯
・ 災患者数	2,015 人
・ 被害総額	2,141,200 千円

## 北海道南西沖地震

### ア．地震の規模

平成 5 年 7 月 12 日午後 10 時 17 分、北海道南西沖を震源とする M7.8 の地震が発生し、青森市においても震度 4（中震）を記録した。

震源地は北緯 42 度 8 分、東経 139 度 4 分で震源の深さは 35 km と推定された。

### イ．被害の状況

北海道奥尻島を中心に大津波、家屋の損壊・浸水、家屋の焼失、道路の損壊、船舶の被害等により、多数の死傷者、行方不明者が発生する甚大な被害を受けた。

青森市においては、幸い人身事故等もなく被害は軽微であった。

・医療施設被害（外壁タイル一部はく離等）	1,913 千円
・商工関係被害（商品等の落下）	12,570 千円
・文教関係被害（ガラス等の破損）	738 千円
計	15,221 千円

### ウ．応急対策

地震発生後、直ちに青森市地域防災計画に定める動員配備基準に従い予想される事態に対処すべく態勢をとり、防災関係機関、庁内関係各部（課）と連絡をとりながら情報収集に努めた。

また、津波警報が発令されたため、消防本部、消防団では津波警戒態勢に入り海面監視を行ったが、特に異常は認められず態勢は解除された。

## 三陸はるか沖地震

### ア．地震の規模

平成 6 年 12 月 28 日午後 9 時 19 分頃、三陸はるか沖のごく浅いところを震源とする M7.5 の地震が発生し、八戸市で震度 6、青森市、むつ市、盛岡市においても震度 5（強震）を観測したほか、北海道から中部にかけての広い範囲で有感となった。

震源地は、北緯 40 度 27 分、東経 143 度 43 分である。

### イ．被害の状況

八戸市を中心に県南では多数の死傷者、家屋の全壊・損壊、道路、港湾施設、上下水道をはじめライフラインに甚大な被害を受けた。

青森市においては、清掃工場の煙突破損、水路トンネル内壁部分崩壊、小中学校の外壁亀裂、水道排水管の破損等をはじめ、卸小売業の商品落下による商品損傷や店舗等の破損などの被害を受けた。

また、市内一部での一時停電（500 戸）と、J R 東北本線が不通となり野辺地～八戸間がバス代行となった。

・軽傷者	4 名
・公共施設被害	331,829 千円
・公共文教施設被害	25,630 千円
・農林水産業施設被害	119,588 千円
・その他公共施設被害	186,611 千円
・民間被害関係	236,822 千円
計	568,651 千円

#### ウ．応急対策

地震発生後、直ちに青森市地域防災計画に定める動員配備基準に従い予想される事態に対処すべく態勢をとり、防災関係機関、庁内関係各部（課）と連絡をとりながら情報収集に努めた。

なお、甚大な被害を受けた八戸市に対し、水道部職員 9 名、給水タンク車 3 台を地震発生の翌日、災害復旧要員として派遣した。

### 第 6 . 津 波

青森市内は、地形的に下北半島、八甲田山系、津軽半島に囲まれた波静かな陸奥湾に面していることなどから、直接、震源域が海岸に面している太平洋岸や日本海岸の地域に比べ、比較的津波の影響は少なく、これまでに大きな被害を受けていない。

### 第 7 . その他

#### 八甲田山自衛隊員死亡事故

平成 9 年 7 月 12 日、八甲田山田代平において、陸上自衛隊のレンジャー訓練中、隊員が誤って窪地（通称「ガス穴」）に転落し、二酸化炭素中毒で 12 名が病院に収容され、うち 3 名が死亡する事故が発生した。

事故後、青森県は事故の発生原因を究明し、事故再発の予防対策に資することを目的として、国の協力を得て学識専門家による「八甲田山火山ガス調査専門委員会」を設置し、平成 10 年度から 11 年度にかけて詳細な調査・研究を行った。

この調査専門委員会の調査結果に基づき、青森市は平成 12 年度において、窪地内への火山性二酸化炭素の滞留を防止するため、窪地及び周辺の樹木の刈り払いを行うとともに、立ち入り禁止のための防護柵を設置し、定期的に巡視、点検、安全管理作業を行いながら、事故の再発防止に努めている。



## 不発弾処理

ア．発見日時 昭和 56 年 4 月 6 日 午前 9 時 50 分

イ．発見場所 青森市大字野内字浦島 16 番地  
シェル石油(株)青森油槽所敷地内

ウ．発見爆弾 米国製 500 ポンド爆弾 ( 250 kg 程度 )、長さ約 1.25m、直径 30 cm

### エ．発見時の状況

4 月 6 日シェル石油青森油槽所内において石油タンク 2 基を埋設するための地盤改良中、地下約 3.5 メートルのところから前記爆発物を発見、パワーショベルで地上に揚げた後その周りを土のうで固めた状態に置き、処理方法を検討することとした。

### オ．処理対策

不発弾発見と同時に各関係機関を招集して、不発弾処理対策会議を開催し、今後の処理対策を検討したが、自衛隊が爆弾処理作業を実施する際に爆発の危険性があるため、青森市では対策本部を設置し、市民の避難対策に当たることとした。

4 月 23 日処理作業当日 8 時 30 分から市民の避難を開始し、各関係機関の作業準備完了後、予定通り 10 時に作業が始まり、約 6 時間 30 分の長時間の作業後、無事、爆弾を処理した。

### カ．主な対策事項

(ア) 4 月 15 日、青森市において「野内浦島不発弾処理対策本部」を設置

(イ) 不発弾の処理作業は、爆弾の移動が危険なため、現場で信管を抜き取ることとした。

(ウ) 爆発の危険があるため、爆弾の周りを土のうで固め、同時に油槽から油を抜くこととした。

(エ) 半径 1.2km の市民 ( 対象世帯 690 世帯、人員 2,260 名 ) を避難場所 ( 久栗坂小学校、宮田小学校、原別小学校 ) にそれぞれ避難させることとした。

(オ) 処理作業時間帯は、バス、車両及び鉄道、船舶の安全のため、陸上と海上の交通規制を行うこととした。

### キ．対策費 ( 青森市分 )

市民避難対策費用 5,296 千円

### ク．補償問題

青森市に対して、シェル石油(株)及び三井液化ガス(株)から爆弾処理経費について補償の要望があったが、責任の所在が明らかでないことから補償はできないこととしたが、昭和 56 年 11 月 30 日、シェル石油(株)代表取締役より費用償還の請求の訴状が出され、法廷で争うことになった。

しかし、昭和 59 年 12 月 27 日に至ってシェル石油(株)側は訴えを取り下げている。